

## 感染症情報 9月2日～8日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	756例(堺市	39例)
②RSウイルス感染症	701例(堺市	97例)
③手足口病	308例(堺市	22例)
④溶連菌感染症	276例(堺市	30例)
⑤ヘルパンギーナ	246例(堺市	17例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 81例(堺市 8例)

感染症報告数は前週比12.2%増の2,787件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎、以下RSウイルス感染症、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して4%減、堺市では13%減であった。RSウイルス感染症が府下で50%増、堺市で60例→97例(62%増)であった。さらに増加中であり、来週の報告数で1位になりそうである。手足口病は府下で8%増、堺市で16例→22例であった。溶連菌感染症は府下で6%減、堺市で35例→30例であった。ヘルパンギーナは府下で30%増、堺市で19例→17例であった。

インフルエンザが前週25例→今回81例で急に増加している。堺市でも前週0→今回8例報告があった。流行が早い可能性がある。

麻疹や風疹の報告はなかった。